

**CASBEE-新築(簡易版)2008年版**  
**(仮称)学研都市病院老健施設増築工事**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.1.1)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.2</b>	0.15	<b>3.4</b>	1.00			<b>3.2</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40			
1 暗騒音レベル		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.6</b>	0.40	<b>4.1</b>	0.40			
1 開口部遮音性能		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.30			
2 界壁遮音性能	間仕切りにはガラスウール充填	<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	<b>5.0</b>	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	<b>5.0</b>	0.20			
<b>1.3 吸音</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.1</b>	0.35	<b>3.2</b>	1.00			<b>3.1</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.2</b>	0.50	<b>3.4</b>	0.50			
1 室温設定		<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	0.57			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能	外壁には断熱材・窓ガラスは複層ガラス	<b>4.0</b>	0.25	<b>4.0</b>	0.43			
4 ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 湿度制御		-	-	-	-			
7 時間別空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20			
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.5</b>	0.25	<b>4.1</b>	1.00			<b>3.6</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>4.2</b>	0.30			
1 昼光率		<b>3.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.60			
2 方位別開口		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-			
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40			
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		<b>3.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00			
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15			
1 照度		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00			
2 照度均等性		-	-	-	-			
<b>3.4 照明制御</b>	一般部分は細かく制御・病室にはベッドライト設置	<b>5.0</b>	0.25	<b>5.0</b>	0.25			
<b>4 空気環境</b>		<b>4.4</b>	0.25	<b>4.3</b>	1.00			<b>4.3</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>5.0</b>	0.50	<b>5.0</b>	0.63			
1 化学汚染物質	全建材F☆☆☆☆以上	<b>5.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	1.00			
2 アズベスト対策		-	-	-	-			
3 ガス・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
<b>4.2 換気</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.3</b>	0.38			
1 換気量	概ね1.5倍の換気量のある設備を設けている	<b>5.0</b>	0.50	<b>5.0</b>	0.33			
2 自然換気性能		<b>3.0</b>	-	<b>4.0</b>	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		<b>1.0</b>	0.50	<b>1.0</b>	0.33			
4 脱臭計画		-	-	-	-			
<b>4.3 運用管理</b>		<b>5.0</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		<b>3.0</b>	-	-	-			
2 喫煙の制御	全館禁煙	<b>5.0</b>	1.00	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-			<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>4.4</b>	1.00			<b>3.3</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.60			
1 広さ・収納性		<b>3.0</b>	-	<b>5.0</b>	1.00			
2 高度情報通信設備対応		<b>3.0</b>	-	-	-			
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	1.00	-	-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.5</b>	0.40			
1 広さ感・景観		<b>3.0</b>	-	<b>4.0</b>	0.50			
2 リフレッシュスペース		<b>3.0</b>	-	-	-			
3 内装計画		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.50			
<b>1.3 維持管理</b>		-	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保		<b>3.0</b>	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.2</b>	0.31	-	-			<b>3.2</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48	-	-			
1 耐震性		<b>3.0</b>	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.6</b>	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁はすべてタイル貼	<b>5.0</b>	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外ダクトはガルバニウム製を使用	<b>4.0</b>	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管(塩ビライニング鋼管)・排水管(硬質塩ビ管)にBランク使	<b>5.0</b>	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>2.0</b>	0.23	-	-			

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用・配管系統の細分化	4.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	別表参照(解説Q2)	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			4.1	0.29	3.8	1.00
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	4.6	0.50
1	階高のゆとり	平均階高4.08m	5.0	0.60	5.0	0.60
2	空間の形状・自由さ	玄関ロビーの壁長さ比率は0.04、療養室は0.12	5.0	0.40	4.0	0.40
3.2 荷重のゆとり		共用部分は概ね3,500N/m <sup>2</sup> 以上	4.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-
1	空調配管の更新性	空調は移管は冷媒管のみのため配管の更新の必要なし	4.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	幹線は天井内ケーブルラック・末端壁配線は配管を使用	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	幹線は天井内ケーブルラック・末端壁配線は配管を使用	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出		学研都市景観条例が適用され景観審議会を通過している	4.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		ERR=9.5	3.0	0.30	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-
1.1	節水	節水便器・自動水栓の採用	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	OAフロア、塩ビタイル、塩ビシート、衛生陶器など	5.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能(OAフロア・軽鉄間仕切り)	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-
1	消火剤	ハロン消火剤を使用していない	4.0	0.33	-	-
2	断熱材		2.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		自動計算による	3.6	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善	別表(解説LR3)による	4.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減	京都府指導基準を超過して透水性舗装を設置している	4.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制	駐車場の確保など	5.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.3	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	日照阻害の抑制	日影図による	4.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	適切な照明計画・サイン計画を行った	5.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-